

「望まぬ妊娠」への妊産婦・新生児訪問指導

石井陽子1) 沢田千恵子1) 中村妙子1) 上野恭子1)
大橋道子1) 池田 恵 1) 松井一郎2)

要約：神奈川県逗子市では、育児支援の一環として、親子のこころの健康づくりに重点をおいた母子保健活動を展開しているが、前回の研究から、「望まぬ妊娠」の母親を含めて、妊娠中及び4ヵ月児健康診査受診前の育児不安の強い時期を支えるシステムの充実の必要性を感じた。そこで平成9年度より、妊産婦・新生児訪問指導事業を早期の育児支援事業と位置づけ開始した。訪問指導記録票やアンケート調査等を分析したところ、予防活動の効果が期待できることが示唆された。

見出し語：妊産婦・新生児訪問指導対象者の概況

アンケート調査の結果

望まぬ妊娠の母親の状況

1 研究の方法

妊産婦・新生児訪問指導対象者のうち、平成9年4月から11月までに訪問した初産婦及び望まぬ妊娠等の母親の状況について記録票から分析しアンケート調査を実施した。また、望まぬ妊娠については、健診等での状況をみた。

2 妊産婦・新生児訪問指導対象者の概況

訪問指導を実施した対象者は初産婦と望まぬ妊娠等の母親99人で、第1子77人、第2子11人、第3子10人、第5子1人である。これらの訪問理由は、初産であるのみが61人で、望まぬ妊娠は10人である。(表1)

核家族率は79.8%であり母親の年齢は、25～29歳が39.4%、30～34歳が38.4%で合わせて77.8%となっている。(表2) 訪問実施に関係のある出産後に帰る場所は、第1子に里帰りが多く、49人63.6%となっている。(表3) 初回訪問時期は、第1子のうち新生児期に訪問できたのは77人中23人、29.9%であり、生後1ヵ月半まででは72.7%の訪問率となっている。しかし、27.3%は、2ヵ月前後から3ヵ月の訪問となっている。(表4) また、出産後の訪問を2回以上行ったのは、全員第1子で4人、約4%にあたり、その内訳は「強い育児不安」2人、「マタニティブルー」1人、

1) 神奈川県逗子市役所 市民健康課

2) 神奈川県横浜市港北保健所

「新生児仮死後遺症の不安あり」1人で各々12日目、27日目、60日目、63日目の初回訪問で初めて把握したケースである。(表5)

3 アンケート調査

訪問指導実施者99人に郵送による無記名式アンケート調査を行った。アンケート回収数は71通、回収率は71.7%である。

育児の援助者や相談者は全員が「いる」と答えているが、第1子のうち9人が、夫など1人だけである。(表6)また、育児情報の入手先は複数回答であるが、80.3%の母親が育児書、育児雑誌から得ており、76.1%が友人から、73.2%が親からと答えている。(表7)

訪問の時期については76%がちょうどよいとしているが、15.5%がもう少し早く訪問してほしいと答えている。また、訪問回数については、36.6%の人がもっと多く来てほしいとしている。

退院直後の母親の不安は、母乳やミルクに関することが一番多く37人52.1%、赤ちゃんの健康状態31人43.7%、赤ちゃんの身の回りの世話30人42.3%と続き、母親本人の体調の不安は24人33.8%、不安は特にないと答えたのは2人であった。(表8)

生後28日までの間に訪問を受けた母親で、訪問してもらってよかったことは、体重測定68.2%、育児について相談ができた63.6%、赤ちゃんの話を聞いてもらえた45.5%となっており、赤ちゃんに対する直接的な不安解消ができたと評価する人が多く、生後29日以後の訪問では、育児について相談ができた65.3%、赤

ちゃんの話聞いてもらえた59.2%、体重測定してもらえた44.9%となっており、育児についての相談を評価する母親が多い傾向にある。(表9)

訪問の改善点として「訪問の時期」「時間をゆったりと」「育児相談の継続」「乳房マッサージの実施」などを望む声があがっているが、全体としては訪問事業について80%以上が満足していると答えている。また、「どんな行政サービスがあったらよいか」の問いに対して、「育児相談ができる場」66.2%、「計測できる場」59.2%と続いており、その他いろいろな要望が寄せられている。(表10)

4 望まぬ妊娠の母親の状況

望まぬ妊娠の母親10人のうち、妊婦訪問を行った6人は、「落ち着いて出産にのぞむようにしたい。」「かわいいと思うようになった。」「上の子ども達も喜んでいる。」「今はいい子をうみたいと思っている。」など受け入れる姿勢に変化している。妊婦訪問未実施の4人のうち3人は、事業実施前であり、1人は訪問希望なしであった。

新生児訪問は、新生時期の実施が4人、32日目、49日目、50日目が1人ずつ、60日目が2人、109日目の実施が1人であった。出産後は8人が自宅に帰っており、市内の里帰り1人、3ヵ月半里帰りしていた1人、となっている。また、育児の援助者は夫のみが5人、夫と実母や姉妹の2人が4人、夫と実母と姑の3人いる人が1人となっている。なお、9人は核家族であった。子どもや育児等については、初めて赤ちゃんを見た時の感想や訪問時のことば、印象からほとんど

が受け入れているが、「訪問を受けなければいけないんですか。義務ですか。」と拒否的であった母親は、4歳の娘に手がかかるので、これから当分実家に行く予定といい、1ヵ月児健診を早目に受けるからと体重測定も希望しなかった。さらにこのケースは、4ヵ月児健診でも、ミルクの飲みが悪いと訴えている。混合栄養であるが発育はよいため、ミルクはあせらず、食欲にあわせるよう助言した。その後の5ヵ月児すくすく教室では母乳のみで順調な発育であり、心配なことは解消していた。

4ヵ月児健診では、10人とも発育発達は順調であった。心配事や気になることはないという母親が7人、臍ヘルニアや、手のひらのブツブツとかぜ気味、ミルクの飲みが悪いことが気になっているのが3人であった。問診票の「育児は楽しいか」の問いに「楽しい」と答えた母親は4人、「まあ楽しい」は4人、「ふつう」が1人、記入もれ1人となっている。(表11)

5 今後の方針

保健婦と助産婦の密な連携のもとでの妊産婦・新生児訪問指導事業は、育児支援システムの構築を行っていく上で、効果があったと考えられる。特に、育児不安のおこりやすい0～3ヵ月の時期に家庭訪問を行うことが望ましく、要望の多い新生児への訪問を確実に行うためには、他市町村との連携のとりかたを検討していくことが課題である。

第2子以後の子どもを持つ母親の訪問指導事業については、対象者が少なく断定できないが、数の集積を待って、効果的な支援方法を再検討して

いく。

育児相談を気軽に受けることができる場の開設と、友人から育児情報を入手することが多いことから、先輩ママなど、育児支援のできる人材の育成など他機関と協同してすすめていきたい。

望まぬ妊娠は、育児姿勢が消極的であったり、育児不安やイライラをおこしやすく、虐待ハイリスクである。早期から確実に関わるのが重要で妊産婦・新生児訪問指導事業の効果は大きいと評価できる。さらに、打ち合わせ会をより充実させ助産婦の訪問指導から保健婦の育児支援活動へスムーズにリレーできるようにすることによって、母親の育児不安の解消や虐待予防をはかっていきたい。

表1 訪問対象者

	訪問理由	小計	計
第1子	第1子のみ	61	77
	母疾患あり (バセドウ 急性膵炎、腎盂腎炎)	4	
	年齢	4	
	妊娠経過の異常	2	
	出血 (+) 尿ケトン体 (+)		
	望まぬ妊娠、未入籍	1	
	未入籍	1	
	育児不安	1	
	不妊治療あり	1	
	母外国人	1	
母Rh (-)	1		
第2子	前回帝王切開	3	11
	上の子との関係	3	
	望まぬ妊娠	2	
	母疾患あり (腎臓病、結核)	2	
	育児不安	1	
第3子	望まぬ妊娠	5	10
	望まぬ妊娠、母外国人	1	
	前回帝王切開		
	5回目以上の妊娠	1	
	前回前置胎盤	1	
	母外国人	1	
上の子との関係	1		
第5子	望まぬ妊娠	1	1
計			99

表2 母親の年齢

	人数	比 (%)
~19	1	1.0
20~24	12	12.1
25~29	39	39.4
30~34	38	38.4
35~39	6	6.1
40~	3	3.0
計	99	100.0

表3 出産後帰る場所

	里帰り	自宅	計
第1子	49	28	77
2	4	7	11
3	1	9	10
5		1	1
計	54	45	99

表4 初回訪問時期

	第1子	第2子	第3子	第5子	計
~28日	23	7	3	0	33
29~45日	33	2	3	0	38
45日~	21	2	4	1	28
計	77	11	10	1	99

表5 訪問回数

	訪問回数	人数	計
第1子	1回	73	77
	2回	3	
	3回	1	
第2子	1回	11	11
第3子	1回	10	10
第5子	1回	1	1
計			99

表6 育児の援助者・相談者

	1人	2人	3人	4人	5人	6人～	計
第1子	9	3	14	13	9	9	57
第2子	0	1	5	2	1	0	9
第3子	1	0	0	2	1	1	5
計	10	4	19	17	11	10	71

表7 育児情報の入手先（複数回答）

	人数
育児書・育児雑誌	57
友人	54
親	52
姉妹	21
テレビ	13
ラジオ	2
無回答	2
計	201

表8 退院直後の母親の不安（複数回答）

	第1子	第2子～	計
母乳、ミルクに関すること	35	2	37
赤ちゃんの健康状態	28	3	31
赤ちゃんの身の回りの世話	14	16	30
母親本人の体調	20	4	24
特になし	2		2
その他	3	4	7
計	102	29	131
実人数	57	14	71

表9 訪問でよかったこと（複数回答）

	訪問時期		計
	～28日	29日～	
育児に付いて相談できた	14	32	46
赤ちゃんの話を聞いてもらった	10	29	39
赤ちゃんの体重測定	15	22	37
乳房マッサージ	3	1	4
その他	5	4	9
計	47	88	135
定数	22	49	71

表10 どんな行政サービスがあったらよいか（複数回答）

	人数
育児相談ができる場	47
身長・体重測定ができる場	42
遊びの場の確保	40
育児教室	27
母親の息抜き場	24
家庭訪問	18
その他	20
計	218

表 1 1 望まぬ妊娠と母親の状況

出生順位 性別 生年月日	妊娠中	妊婦訪問	出産時感想 (4ヵ月児 アンケート)	新生児訪問	援助者	4ヵ月児健診	育児は 楽しいか
第1子 男 H9.4.3	未入籍 経済上不安	無	ほっとした	25日目(市内里帰り) 出産前入籍 経済上も心配あり	夫・姉	心配なし	まあ 楽しい
第2子 女 H9.5.3		無	上の子に そっくり	18日目訪問受け入れ 拒否的、4歳の娘手が掛る ので1ヵ月児健診早めて 2、3ヶ月実家に帰る	夫 実母	ミルク飲み 悪い	まあ 楽しい
第3子 男 H9.4.8	年子になる 経済上不安	無	かわいい	109日目(里帰り) 臍ヘルニア気になる	夫	臍ヘルニア	ふつう
第3子 女 H9.9.6	前夫の子 3人あり 年齢41歳	無 希望せず	うれしかった	60日目 上の子も面倒みて くれて育てやすい	夫 姉妹	心配なし	楽しい
第2子 男 H9.10.12	年齢42歳	落ち着いて 出産に臨む 様にした	不明 アンケート 未提出	28日目 上の子もよく聞分けて 安心できる	夫	手のひらの プツプツ かぜ気味	楽しい
第3子 男 H9.8.20	前回帝王切開 母外国人	かわいいと 思えるよう になった	どこも異常なく 元気なので ほっとした	7日目 かわいいので生んで よかった	夫	心配なし	まあ 楽しい
第3子 女 H9.9.21	前夫の子 2人あり	望まなかった が、やはり頑 張ろうと思う	不明 アンケート 未提出	32日目 母乳で頑張ろうと 思っている	夫	心配なし	楽しい
第3子 女 H9.9.25		胎動を感じて かわいく なった	不明 アンケート 未提出	50日目 女兒で大変喜んでいる 育児苦にならない	夫 実母 姑	心配なし	不明
第3子 男 H9.10.2		上の子供達も 喜んでいる	不明 アンケート 未提出	60日目 育てやすく母乳よく 出る。とても嬉しい	夫 姉妹	心配なし	楽しい
第5子 男 H9.8.27		いい子を 生みたい	また男だった かあーと思った	49日目 とてもかわいい	夫	心配なし	まあ 楽しい



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:神奈川県逗子市では、育児支援の一環として、親子のこころの健康づくりに重点をおいた母子保健活動を展開しているが、前回の研究から、「望まぬ妊娠」の母親を含めて、妊娠中及び4ヵ月児健康診査受診前の育児不安の強い時期を支えるシステムの充実の必要性を感じた。そこで平成9年度より、妊産婦・新生児訪問指導事業を早期の育児支援事業と位置づけ開始した。訪問指導記録票やアンケート調査等を分析したところ、予防活動の効果が期待できることが示唆された。